

地域の安全・安心の願いを込めて 三本の矢作戦



7月7日に、村・村商工会・交通安全協会・防犯協会などによる「安全・安心 三本の矢作戦」が行われました。富良野地域の安全安心まちづくりに寄与するため、上富良野町から占冠村までの間をタスキリにより、事件・事故防止を訴える街頭啓発を実施し、村に到着しました。

到着式では各市町村長等が安心・安全の願いを込めた短冊を結び付けた「安全の木」が富良野警察副署長に手渡されました。

村の 出来事

6月・7月

村内の出来事、話題 をお届けします

トマムで「川の学校」



7月3日、村と北海道大学・星野リゾートトマムの三者連携協定事業「川の学校」が行われました。占冠中央小学校3年生とトマム学校1・3・6年生が参加し、星野リゾート内の池で水生昆虫の生態などを学習しました。

リゾート内の池で、魚釣りをを行い、釣った魚に麻酔をかけ胃の中から水生昆虫やありなどを確認しました。

魚は水の中の生き物だけでなく川に落ちた虫も食べており、川と森はつながっていることを学びました。

児童からは「魚はなかなか釣れなかったけれど、魚のことをいろいろと知ることができてよかった。」と感想がありました。

トマム学校で林業教室



7月7日の林業教室は学校周辺の山の中を観察

トマム学校の総合的な学習の時間において、村の森や林業のことを知る「林業教室」が4回行われました。

役場林業振興室職員らが先生となり1回目はどんな木を伐るのか、伐った木はどんな使い方ができるのかなど、森の育て方を学習しました。2回目以降は、同じ樹種（木の種類）の林齢（年齢）による成長の違いや、間伐現場と間伐材を板にする様子など林業の現場を見学し森林整備の大切さを学びました。また、トマム学校周辺の山の木の種類を、樹皮や葉の違いを観察しながら調べました。

児童からは、「木はどのように成長するのか？」「木の中はどうなっているのか？」「樹液が流れる音は聞こえるのか？」などの質問があり積極的に学習に取り組んでいました。

「里山資本主義」から学ぶ ～占冠村ならではの林業六次産業化をめざして～



村の状況や可能性について対談する
(左から) 竹本さんと藻谷さん



6月24日に、林業六次産業化に向けた講演会がコミュニティプラザで行われ、50名が参加しました。講演会は藻谷浩介さん(株式会社日本総合研究所調査部 主席調査員)を招き、「里山資本主義の視点から眺める地域の今とこれから」と題した講演と、竹本吉輝さん(株式会社トビムシ代表)との対談が行われました。

「里山資本主義」とは、お金で全てのを賄う「マネー資本主義」の反対語として用い、「生活の一部をお金のかからないもの(例えば、家庭菜園や薪ストーブなど)を利用することで、価値が生まれ循環する。形の揃った大量生産が必ずしも生き残れるわけではない。」とし、いくつかの都市や村など人口減少の実態を示しながら、減少率の低い町での地元ならではの取組事例が紹介されました。

対談では、六次産業化の取り組みを手がける竹本さんから、村には独特な木があるなど木の特徴について触れ、里山資本主義に生きる場合の可能性について話されました。

とま～るで避難訓練



6月28日に、小規模多機能施設「とま～る」で避難訓練が行われました。出火を知らせる非常ベルが鳴ると、職員らが火元の確認や利用者の避難誘導などを行い、3分以内で避難しました。

消防占冠支署職員からは、「3分以内の避難はすばらしいが、出火元確認後に隣の部屋(風呂場)に人がいないか声かけていくと、なおスムーブに避難が出来る」とし、ポイラーが爆発したらどうしようか、一斉に利用者を避難させるにはどうしたらよいかなど訓練を通じて考えていくことが大切だと話されました。

とま～るでは、年2回避難訓練を実施しており、次回は夜間での訓練を予定しています。

平和への誓い新たに 戦没者追悼式



7月5日、占冠神社境内で戦没者追悼式が行われました。追悼式では、中村村長をはじめ相川村議会議長などから追悼の言葉が捧げられ、その後遺族や来賓の参列者による献花が行われました。先の大戦において尊い生命を捧げられた英霊に対し哀悼の意を捧げ、郷土の限りなき発展、平和への誓いを新たにしました。

また、同境内では占冠村の自治振興に尽力された歴代村長や議会議員を偲ぶ自治功労物故者追悼式も行われ、遺族や関係者が哀悼の意を示していました。